

活動名	団体名	こどなひろば中国支部
子どもと大人の世代を越えたディスカッションイベント「こどなひろば」の開催	地域	広島県広島市
	代表者	2013年度代表 吉崎 友貴
	支援金額	10万円
活動概要		
<p>団体創設者が電車の中で聞いた「高校生は何も考えていなくて楽だよ」という言葉。世代が違えば、お互いに対する偏見を持ってしまったり、世代間の価値観のずれが生じてきたりするものだと思います。これらの問題の緩和を図るために、私たちは、子供と大人の対話の場を設けるディスカッションイベントを年中通して開催しました。</p> <p>こどなひろばは、現在全国に5つ支部があり、それぞれの支部が独立した活動を行っております。こどなひろば中国支部も、他の支部も、メンバーがすべて高校生で構成されており、イベントは企画、運営において、高校生が主体となって行いました。様々な方の指導、協力をいただき、盛大にイベントを開催することができました。</p> <p>世代が違えども、子供も大人も一人の人として接する。そのような世界を作ることができれば、双方の意見が反映された社会づくりをより実現可能なものにし、地域の連帯をより強固なものにできると信じています。</p> <p>◆実施時期 ①2013年6月23日 広島アステールプラザ 大会議室 ②2013年8月11日 南区民文化センター大広間 ③2014年3月30日 広島青少年センター 集会室 3</p> <p>◆参加人数 ①40名 ②11名 ③37名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:88名</p>		



ディスカッションの成果



第1回イベントの様子



第3回イベントの様子



第3回イベント 集合写真

◆実施に伴う効果

・Hiroshima Future Center(HFC) さんとの協力関係の形成。

こどなひろばを一年間続けていくに当たり、様々な人と出会っていくなかで、Hiroshima Future Center さんというこどなひろばとよく似た理念を持つ団体を発見しました。3 月に行った第三回目のイベントにおいては、広報という形でのご協力をしていただきました。これからは、共催を一緒にしたいという話も出てきています。

様々な形でお互いがサポートし、切磋琢磨し合えるような環境づくりをこれから目指していきたいと思っております。地域連帯を図る団体同士のコネクションを持つことができたことで、この分野の活動が活発になっているように見受けられます。

・参加者個人に与えた影響

この一年間を通しのべ 87 人の参加者の方々が、活発な対話を行っていました。中には、大人と子供でまったく赤の他人だったはずの二人が、意気投合をしメールアドレスを交換している場面だったり、参加者同士が最後に握手を交わし合っている場面があり、参加者の方々にイベントから持ち帰るものがあったのだなと実感しました。

最近の若者はすごいな。負けてられない。と真剣に呟いていた大人の参加者の方もいらっしゃいましたし、「このイベントが俺の人生を変えてくれたよ」と私たちに話してくれた若者もいました。このイベントが参加者の自己啓発となり、また、世代に対する認識を変えていることを感じられて、ほっとしました。

◆苦勞した点

広島市内ではあるものの、運営メンバーがそれぞれ違う高等学校に通っているため、ミーティングで全員が集まるのが滅多にありませんでした。人によれば、部活、学習塾の関係上、調整できる時間がほとんどない人もいました。そのため、団体の中の情報共有を一貫して高レベルで維持し、団体を一つにして動くということがなかなかできませんでした。

そのため、特にイベントのカラーやディスカッションのテーマを企画する段階において、運営メンバー全員の意見を聞くことができず、イベントの企画に時間がかかった時期もありました。

高校生であり、大人の広報にも少し苦勞はしましたが、Facebook ページなど、ネットの活用や、新聞取材、ラジオ広報など、様々な広報を展開することによって、少しずつ参加者層が増えていったので、最終的には乗り切ることができました。協力していただいた団体、及び、個人の方々に感謝を述べたいと思います。

◆今後の課題・発展の方向性

高校生活は三年間しかないため、高校生団体という運営のカラーを続けていく際、団体の新旧交代が著しく起こってしまうのが今後の課題でもあります。現に、2013 年度の 12 名のメンバーのうち、9 名は高 3 に上がるとともに、受験を控えるという理由で運営から離脱をしていきました。こどなひろばをこれからずっと継承していき、より多くの人々に世代間交流を行ってもらうためには、こどなひろば OBOG 会を作るなど、今までにないサポートの形態が必要不可欠になってくるように感じました。

こどなひろばは 2014 年度になっても、「世代を超えて、自由に対話する」をモットーに、ディスカッションイベントを続けていきたいと思っています。これからは、こどなひろばのイベントに参加される参加者数や、年代の幅を広げていけるように精進していきたいと思っております。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団様のご支援のおかげで、準備にかかる代金の負担を極限まで減らすことができました。そして、それ故にイベントをすべて無料で行うことができました。また、マツダ財団様に限らず、ご指導、ご協力をしてくださった、すべての方々に感謝を述べたいと思います。

子供と大人の両者がわかりあうことができれば、もっと良い社会になるはずです。私たちの活動は誠に小さなものですが、地域連帯を目指す私たちのような活動の輪が増えていくことを願っております。